

---

# 3 days

ひろあき

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

3 days

### 【Nコード】

N7917G

### 【作者名】

ひろあき

### 【あらすじ】

人一倍不器用で、努力家で真つすぐな男性「ひろあき」が亡くなってから小さな壺に入るまでの3日間……ひろあきの魂の叫び声を聞いてください。ひろあきの無念な思いが伝わりますように……合掌

## 第1話：俺の命が消えた瞬間

「紅葉でーと」の3日前の早朝に、突然悲劇が訪れた

胸が痛くて苦しくて

必死にもがいていたけれど

嫁もガキも気付かない

同じ家に住んでいるのに

奴らは全く気付かない

あっ そっかあ…

気付く訳ないかあ…

って言うよりも

気付く気サラサラないもんなあ

5ヶ月前…

俺の心臓は半分壊れ、幸い一命取り留めたけど、医師からは

「今度発作が起これば命の保証はない」って宣告されたんだ

退院指導のパンフレットでも、今後の生活の注意点として

「身体に負担をかけないこと」

「ストレスを溜めないこと」

って書いてあったし、嫁は看護師さんの説明聞いて頷いていた

それなのにさ…

嫁とガキは、酷暑の時期に退院直後の俺に

「旅行に連れて行け」とか

「犬が飼えるマンションに引越したい」とか無理難題要求するし、嫁は口クに家事もせず、ガキは学校サボりまくり、マトモな生活してない

それに加えて、いつ発作が起きるかわからない、次の発作で命を落とすかも知れない俺を、扉3枚隔てた部屋で一人で寝かせるんだもんなあ

気付く訳ないよなあ

そんな事を考えながら、俺は最後の力を振り絞り、ケータイを手にとった

その瞬間…

俺の全てが終わってしまった  
ケータイを手にしたままで

その瞬間…

彼女もケータイを手にしてた  
いつもは寝てる時間なのに

彼女もケータイを手にしてた

## 第2話：俺を支えてくれた彼女

彼女がケータイを手にしたのは  
俺が死んだのを感じたから

いつもは寝てる時間なのに心臓が丈夫な彼女なのに  
胸が痛くて苦しくて

俺の身体の異変を感じ

電話をしようとしていたが

ケータイチエックが大好きな

ガキの顔を思い出し

電話する事出来なかった

彼女が胸騒ぎしてる間

嫁とガキは眠ってた

いつものように眠ってた

俺がこの世の最後に電話をしようとした相手は彼女だった

俺には嫁もガキもいる

彼女も旦那と子供がいるが俺達二人は愛し合ってた

世間では

「不倫」と言われているが

俺達二人は愛し合ってた

慰謝料請求されるらしい

不貞行為と罰せられるらしい

性欲のはけ口のためとか  
刺激が欲しいからとか言われてるらしいが

俺達二人は愛し合ってた

「お互いに子供がいるからすぐに離婚して再婚は難しいけど、支え合って助け合って長く付き合おうね。山も谷もあるけど、二人で力を合わせて乗り越えて行こうね」

俺達何度も約束した

小指を絡ませ約束した

決して他人には知られる事はなかったが  
穏やかな交際が続いていた

「安らぎの時間」

「安らぎの空間」

俺の家庭にはなかったが  
彼女と出会い手に入れた

彼女と出会う前の俺は

笑う事を忘れてた

俺は仕事を頑張った

なのに結果は報われない

俺は家族を大事にした

何不自由なく暮らせるように頑張った

なのに俺は報われない

心身共に限界近い俺の前にとびきり笑顔の彼女が現れた

彼女が会社に入ってから

俺に笑顔が戻ってきた

彼女と付き合い出してから俺は毎日幸せだったよ…

なんて事を考えてるうちに検死が終わった

俺は、地方に実家があるから

通夜と葬儀は実家ですが今日はこっちで仮通夜だな彼女は職場同じだし

二人の付き合い知られてないから  
みんなと仮通夜来るだろう

賢い彼女の事だから

人前では普通に悲しむけど陰では大泣きしてるだろう

検死が終わって迎えの車が来た

だけど車は…

西へ西へと走って行った

えっ！何で？

俺の家は北の方角なのに！ここから3キロの距離なのに！  
何で西の方角の

「高速入口」に向かっているんだ？

### 第3話・有り得ない社長命令

「高速入口」を通過した車は  
ビルの谷間を通り抜け  
山の中へと入って行った

これって俺の実家へ行く道じゃないか！  
って事は…誰が俺のお別れに来るの？

俺の実家は遠いんだよ

日帰りではキツイ場所なんだよ  
会社休まなきゃ来れないんだよ

一体誰が会社休むの？

立场上彼女は無理だろう

俺は彼女に会えないの？

最後のお別れ出来ないの？

おかしいだろ！

一番愛した女性なのに

最後に愛した女性なのに

何で会わせてくれないの

俺は彼女に会いたいたいんだ

最後のお別れしたいんだ

俺の叫びは無視されて  
車は海を渡って行った

こんなに遠いところまで

誰が弔問に来てくれるのか  
副社長かな  
飲み仲間かな

でも、何で仮通夜を自宅でしないのかな？  
もしかして…彼女との関係バレてたのかな  
彼女が取り乱すとも思ってたのかな  
それならそれで、彼女を説得すれば済む話だし  
彼女も理解するはずなのに

何で自宅に戻らなかったか

実家に着いて全てが分かった

全部社長とオカンの陰謀だった

「社員全員弔問禁止」

有り得ない命令を社員に出した

会社勤めしてたのに

会社の人が誰一人

通夜も葬儀も来ないなんて

前代未聞の有り得ない話だ

他にも社長は、有り得ない行動を繰り広げた

オカンの横にへばりつき

親族でもないのに葬儀を仕切り

親父がいるのにお構いなしで

オカンに寄り添い大泣きしてた

前から怪しいと思ってた  
コイツらデキてると思ってたけど  
今になって、はつきり分かった

オカンと社長はデキてたし俺は社長の息子なんだ

「社員に私のこんな姿見られる訳にいきませんから、社員全員弔問禁止にして、誰にも会わせないようにしました…」  
社長がオカンに話してた

有り得ない社長の過去

有り得ない社長の自己保身

それらの思惑が集結したのが

「社員全員弔問禁止」

前代未聞の有り得ない社長命令

有り得ない社長命令のせいで

彼女と最後のお別れできないなんて

おかしいだろ！

一番愛した女性なのに

最後に愛した女性なのに

なんで会わせてくれないの俺は彼女に会いたいんだ  
最後のお別れしたいんだ

#### 第4話：喪主と言う名のヒロイン役

俺の遺体が実家に着いて  
布団の上に置かれた途端  
嫁の茶番劇が始まった

喪主と言う名のヒロイン役をゲットした嫁は  
ここぞとばかりに  
泣いている

「朝起きたら死んでいた」と恥ずかし気もなく  
同じセリフを  
何度も何度も言っていた

開いた口が塞がらない

嫁は俺に何してくれた？

嫁が俺に求めていたのは  
俺が稼いだ金だけだろ

嫁の理想の生活は  
楽して贅沢できる生活だろ  
嫁は結果だけしか見ない奴  
嫁は過程は見ない奴

人の心の痛みとか  
人の心の苦しみとか  
理解しようとしなから  
友達みんな離れて行くんだ  
俺の心身を蝕むんだ  
その結果俺は心臓を壊し

こんな姿になつたんだ

それにしても…

嫁は派手に泣いている

ヒロイン役を満喫してる

もしかして…

あの時離婚を拒否したのは

今日のヒロイン役のため？

なるほどなあ

結果重視の嫁らしいわ

嫁らしい事何一つしてなくても

テキトーに泣いてりゃ

それでオツケー

みんなが嫁に同情するさ

俺：しくじつたなあ

俺：ヘタこいたなあ

人生の最後に失敗したよ

人生最大の失敗したよ

取り返しのつかない大失敗

嫁に花を持たせてるのに

彼女を一人で泣かせたこと

あのとき離婚しとけばよかった

ガキの猿芝居に騙されて

離婚をためらったのが

悔やまれる

あのと看離婚してれば  
彼女を泣かさずにするだのに…  
一人で泣かさずにするだのに…

あのと看離婚していれば  
嫁の出番はなかったんだ

一人で泣いてる彼女を思うと、嫁の泣き声がか障りだ

悔やんでも悔やみきれないよ…  
人生最大の失敗だ

遠く離れた東の町で  
彼女を一人で泣かせたこと

## 第5話：何でここに彼女がいないの

本曰いよいよ千秋楽

主役は俺のはずなのに

にわかヒロインの嫁が張り切って

いつもより念入りにメイクする

俺が死んだのも気付かぬぐらいに

寝起きが悪い嫁なのに

今日に限って早起きだ

黒い服着た観客が集まったけどそこには彼女がいない

何でここに彼女がいないの

一番愛した女性なのに

最後に愛した女性なのに

俺は彼女に会いたいんだ

観客にアピールするかのよう

嫁は派手に泣き出した

ガキも真似して泣き出した

冷たく狭い箱の中

俺は一人で泣いていた

遠く離れた東の町で

一人で泣いてる彼女を思い

俺も一人で泣いていた

何でここに彼女がいないの

もうすぐ俺は灰になる

煙と共に消えていく

もう一度彼女に会いたかった

もう一度顔を見たかった

もう一度声を聞きたかったもう一度手を握りたかった

何でここに彼女がいないの

一番愛した女性なのに

最後に愛した女性なのに

俺は彼女に会いたいんだ

悪趣味な飾りの祭壇と

破格の香典袋の山

俺の知らない名前とか

一年以上会ってない奴らばかり

有り得ない社長の

「社員全員弔問禁止」命令のせい

俺は親しい人達と

最後のお別れできなかった

何でここに彼女がいないの

何で彼女は一人で泣いてるの

離婚を拒否った嫁のせい

鬱病偽装のガキのせい

有り得ない命令出した社長のせい

俺の身体は熱くなったが  
冷たい涙は止まらない

何でここに彼女がいないの

一番愛した女性なのに  
最後に愛した女性なのに  
俺は彼女に会いたいんだ  
彼女の顔を見たいんだ  
彼女の声を聞きたいんだ  
彼女の手を握りたいんだ

何でここに彼女がいないの  
何で彼女に会えないんだ！

長く高い煙突から  
一筋の煙が出た

煙の先端が空に刺さった途端…

滝のような雨が降った

お天道様はお見通しなんだ

俺の思いと彼女の思い

## 最終話：約束するよ

俺が小さな壺に入ってから5ヶ月経った

真っ赤な紅葉が散り

真っ白な雪が降り

桜が咲いた

いつもの色と違う桜が咲いた

白い色した桜が咲いた

俺の心が白いから

彼女の心が白いから

今年の桜は白かった

俺の心に積もった雪も

彼女の心に積もった雪も

いまだに溶けずに残っているから

今年の桜は白かった

人を恨む事が許されるなら俺はあいつらを恨みたい

あいつらを地獄に落とせるなら

俺はあいつらを落としたい

あいつらを地獄に落とすのと引き換えに

俺が地獄に落ちても構わない

俺と彼女を不幸にしたあいつら

嫁とガキと社長

俺の寿命を縮めた嫁とガキ俺に彼女を会わせなかった社長

いくら恨んでも恨み足りない  
いくら憎んでも憎み足りない

俺が一番愛した彼女

最後まで愛した彼女には  
いくら謝っても謝り足りない

だから俺は決心した

俺の魂の居場所は

お前の心の中なんだ

お前の心の中で

俺の魂は生き続けるんだ

約束するよ

俺とお前は一緒だよ

ずっとずっと一緒だよ

約束するよ

二度とお前を泣かさない

お前のそばを離れない

嫁が義務的に奉っている仏壇には

俺の魂なんかいないだよ

俺の魂はお前の中

お前の中で生き続けるんだ

約束するよ

今度こそ俺達夫婦になろう今度こそ俺達幸せになろう

彼女も同じ気持ちなんだ

彼女が親友に話してた

「もしも私が死んだとき

ウエディングドレスを着せて欲しい。そして 婚姻届も入れて欲しい」

約束するよ

今度こそ俺達夫婦になろう今度こそ俺達幸せになろう

〜完〜

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7917g/>

---

3 days

2010年10月28日07時27分発行